

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4572100586
法人名	医療法人社団 慶城会
事業所名	グループホーム 仰星台東郷
所在地	日向市東郷町山陰丙1507番2 (電話) 0982-50-7051
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 22年 1月 21日

【情報提供票より】(21年11月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 9月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	7 人
利用定員数計	9 人
常勤	7 人
非常勤	0 人
常勤換算	7 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	300 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(11月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名	
要介護1	1 名	要介護2	1 名			
要介護3	名	要介護4	4 名			
要介護5	3 名	要支援2	名			
年齢	平均	85 歳	最低	77 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	瀧井病院 土田歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

旧東郷町の中心に位置し、まわりは役場、病院、小中学校など公共施設がある。自治会に加入し積極的に地域との交流を図っており、外部の運営推進会議参加者を中心に地域の行事はもとよりホームが企画する行事にも地域の方が参加され楽しく過ごされている。また、地区の消防団や同法人が運営する近隣のグループホームと連携し防災に対する体制が整備されており、入居者や家族の安心につながっている。職員の笑顔が絶えず入居者も穏やかにゆったりとした生活を送っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回あがっていた栄養支援については同法人の医療機関の栄養士に相談し職員で話し合い対応がなされていた。門扉の施錠については、時間帯の工夫など開放して地域の方が気軽に立寄れるような環境づくりの取り組みに期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者を中心に、職員それぞれが自己評価の意義を把握し評価をまとめている。自己評価であがった意見は話し合い改善に向けた取り組みが行われている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地区自治会や民生委員、消防団員、家族、行政職等を交え2か月に1回運営推進会議を開催している。会議では事業所の活動内容や利用者の状況報告を行うと共に、運営上の問題点や災害対策など意見交換を行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に苦情箱を設置すると共に、個々の家族への便りや来訪時に意見や要望など気軽に言ってもらえるように働きかけている。また、来訪できない方には定期的に連絡をとり意見をいただけるよう配慮している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に入会し、地域の行事への参加や婦人会のボランティア受入れなど積極的な交流が図られている。また、ホームでの夕涼み会や餅つき会などの行事にも参加をいただき地域の一員として密に連携を図っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を十分理解し、「利用者が培ってきた家族や地域との関係の継続を大切にして、地域活動への参加を積極的に行っていく」を独自の理念としてつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所や玄関に掲示すると共に、職員は理念に沿った支援ができるように、職員同士で話し合ったり確認しあいながら日々取り組む姿勢ができています。また、月1回定期的なケア会議でも理念について話合う機会を設けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会し、地域の行事への参加や婦人会のボランティア受入れなど積極的な交流が図られている。また、ホームでの夕涼み会や餅つき会などの行事にも参加をいただき地域の一員として密に連携を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者を中心に、職員それぞれが自己評価の意義を把握し評価をまとめている。自己評価であがった意見は、話し合い改善に向けた取り組みが行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区自治会や民生委員、消防団員、家族、行政職等を交え3か月に1回運営推進会議を開催している。会議では事業所の活動内容や利用者の状況報告を行うと共に、運営上の問題点や災害対策など意見交換を行っている。		都合で欠席者があっても弾力的な運営の工夫で、2か月に1回の運営推進会議が開催されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に行政職も定期的に参加していただくことで気軽に意見交換できる環境ができている。また、台風の接近時や水害などの被害状況など東郷支所の担当者と連絡を取り合っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回は請求書に日頃の暮らしぶりや健康状態など個々の便りを作成し同封している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には意見や要望などを気軽に言ってもらえるように働きかけている。また、来訪できない家族にも電話連絡を取るなど、意見を吸いあげ運営に反映できるよう取組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人の意向で関連施設への異動があったが、利用者、家族に報告し利用者がダメージなく馴染めるよう配慮している。同法人内での異動や新規採用職員については、法人の理事長と管理者で十分話し合いができる環境にある。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立て事業所から依頼のある研修や自主研修などに参加し、復命すると共に研修内容を共有化し、職員個々がスキルアップに取り組んでいる。また、運営推進会議でも研修会に参加した職員の報告も行われた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月に1回同市内のグループホームの管理者が交流する機会を持ち、ケアや運営の問題点などの情報交換を行いサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には必ず利用者または家族に来ていただき、施設の見学や入居中の方への紹介など徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の昔の職業から得た知識や、昔の出来事で得た知識、生活の知恵など一緒に過ごしながらか、学び支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から昔の生活の様子など情報を得たり、利用者との日々の関わりの中で、少しずつ希望、意向を話していただけるよう工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回、本人や家族の思いや意向を把握しケアのあり方について全職員で話し合い介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回モニタリングを行い見直しが行われている。また、状況の変化が生じた場合はその都度話し合い、計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診など付添いや送迎、散歩などの支援は柔軟に対応し、個々の要求に対応できるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望に応じ、かかりつけ医が選択できる。また、利用者の状態に変化があった場合は適切な医療が受けられるよう近隣の公立病院や協力医療機関と連携し支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	基本的には看取りは行わない方針であるが、家族や本人の要望がある場合は、家族を含め関連するスタッフで話し合い職員全員で共有した対応ができています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の対応時はプライバシーを損ねないように十分配慮されており、個人情報についても同様に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者を強制することなく、利用者の心地良い居場所を優先し、寄り添う支援がなされている。趣味のある方は自由に活動でき利用者のペースで時間が流れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じテーブルを囲み、楽しみながら一緒に食事をしており、利用者個々の能力に応じて片付けや食器拭きなど行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴時間が設定されているが、利用者の希望やタイミングに合わせて柔軟に支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や力を活かしながら、役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見やコスモス観賞など季節ごとのイベントや地域での祭りの参加などを企画し、定期的に戸外へ出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は鍵はかけてないが門扉は、国道に面し交通量も多く歩道もないため閉めっぱなしである。	○	外出傾向のある方のパターンの把握はできているので、時間帯を考慮しできる限り開放する機会を設けてほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災訓練を行っている。また、自治会の消防団にも加入し日頃より地域の人から協力を得られる体制がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に利用者の食事、水分摂取量をチェックし、職員が情報を共有している。カロリーや栄養バランスは同法人の医療機関の栄養士に相談している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下、トイレ等要所には手摺が設置されている。自然の採光で明るく、不快な音や異臭も無く、利用者が居心地よく安心して過ごせるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の持ち物や本人に関連した写真などの装飾などその人らしい環境づくりがなされている。		